

0/5  
18  
253



PHOTO  
GRAPH  
ALBUM

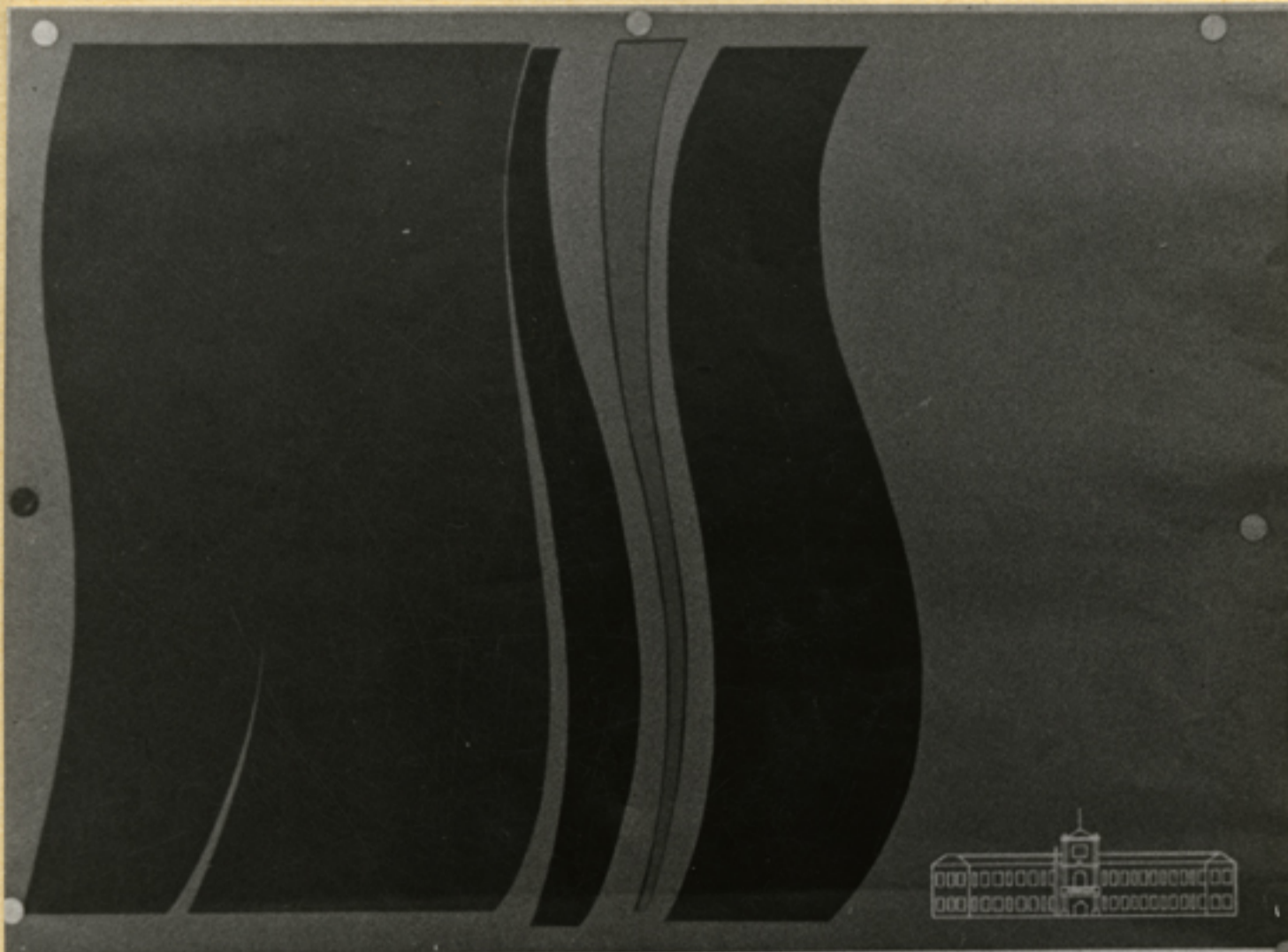
0/5
18
253

小樽商科大学

創立50周年記念写真集

3





小樽商科大学創立50周年記念

# NHK札幌放送管弦楽団演奏会

- 1 前奏曲 衆賢歌進複曲
- 2 交響曲 第40番・ト短調
- 3 交響曲 第8番・ロ短調「未完成」
- 4 組曲 「仮面舞踏会」抜粋  
円舞曲ガロップ

- 日時 / 7月8日(土)後6.30開演
- 会場 / 小樽緑陵高校体育館

入場整理券  
7月1日(土)正午からNHK小樽放送局で先着順に  
お渡しします

主催 小樽商科大学・NHK小樽放送局

小樽商科大学創立50周年記念



入場整理券  
(1枚ご1名)

## NHK 札幌放送管弦楽団演奏会

1961/7月8日(土) / 午後6.00開場 6.30開演 / 小樽緑陵高校体育館



主催 小樽商科大学・NHK小樽放送局

- 開演後は入場できないことがありますので早目にご入場下さい。
- 子供さんのご入場はご遠慮下さい。
- 上履をご持参下さい。





小樽商科大学  
創立五十周年記念講演会

講師及び演題

作家 高見順氏

時代・社会・人間

京都大学教授  
ノーベル賞受賞者

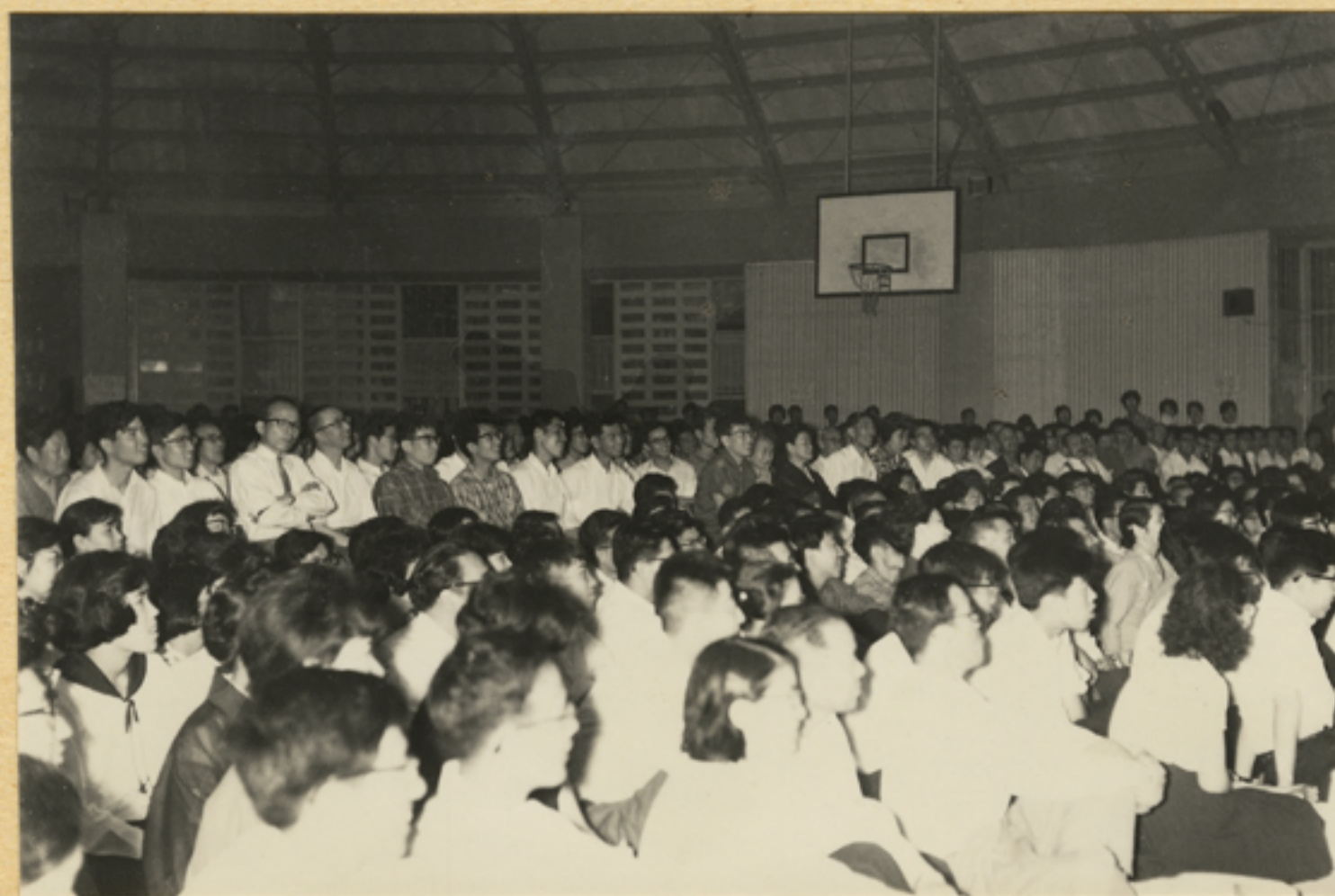
湯川秀樹氏

現代科学と人間

とき 7月9日(日)午後6時30分より  
ところ 稲穂小学校体育館

入場無料

主催●小樽商科大学●後援●小樽市●小樽市教育委員会





湯川秀樹 京都大学教授  
理学博士，昭和15年学士  
院恩賜賞，昭和18年文化  
勲章，昭和24年ノーベル  
賞受賞，著書「原子と人  
間」「素粒子論序説」「  
量子力学講話」「目に見  
えないもの」など。



高見順 作家，昭和5年  
東大文学部英文学科卒，  
日本文芸協会理事，日本  
ペンクラブ会員，作品「  
如何なる星の下に」「今  
ひとたびの」「都会の雌  
雄」など。





緑  
丘  
会  
総  
会

北海ホテル





母校教官  
緑丘会  
懇心親会

海陽亭  
七月七日







小樽商大五十年

(1)

小樽商大五十年

(2)

小樽商大五十年

(3)

小樽商大五十年

(4)

小樽商大五十年

(5)

小樽商大五十年

=(6)=



小樽商大五十年

(7)

小樽商大五十年

(8)

小樽商大五十年

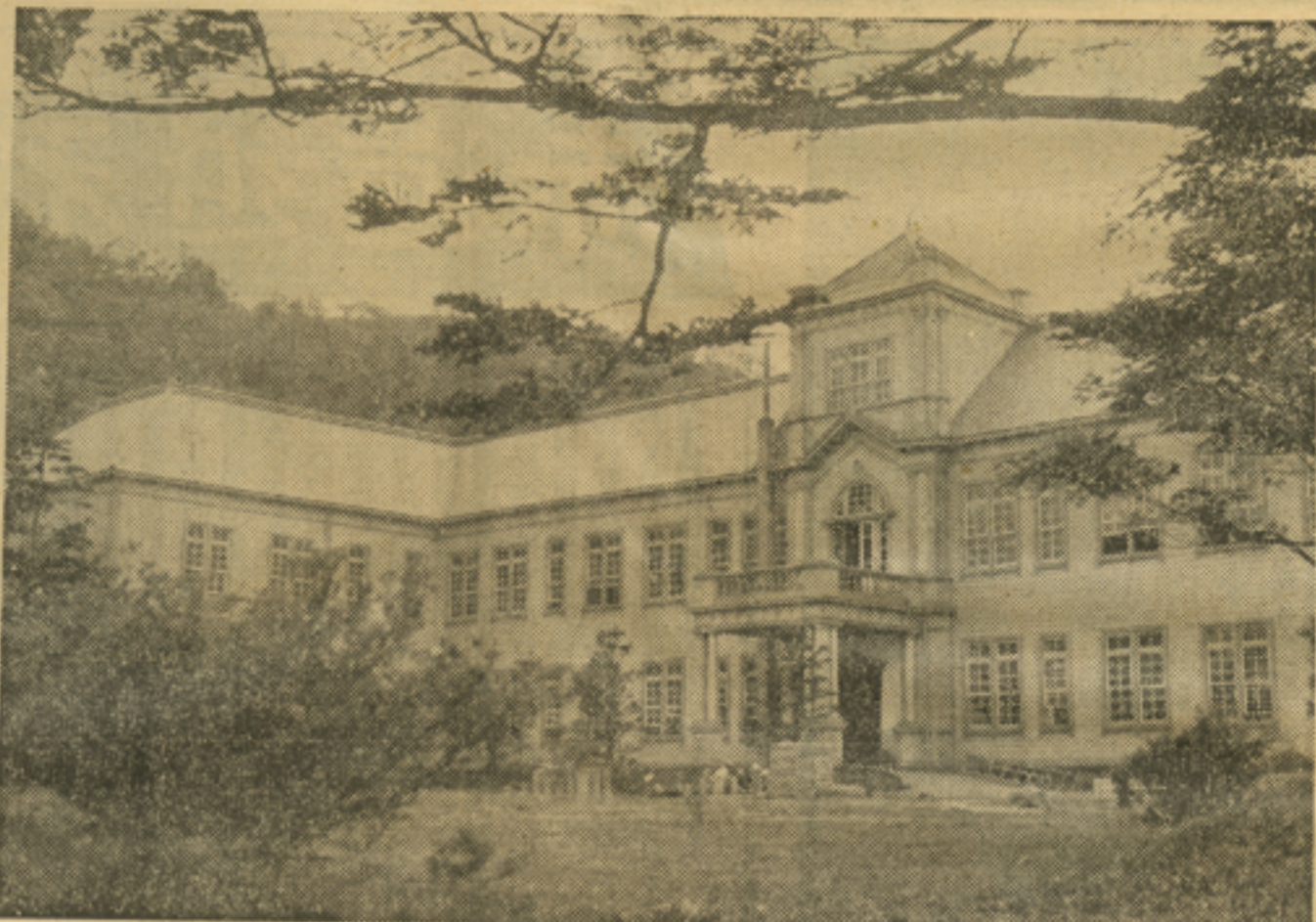
(9)

小樽商大五十年

(10)

# 小樽商大半世紀の歩み

加茂義一氏が五代目学長として就任。いよいよ五年目にして小樽商科大学は創立五十周年をむかえた。鋭気はつらつたる加茂学長のもとに教職員は百余人北辺に育つた。"高商"はこれを機にさらに一段の飛躍をもくしている。速く明治四十三年、小樽高等商業学校創立当初からきよまで、全国から集まつて「緑ヶ丘」の門をくぐり、だんだらの地獄坂を降りた同窓生は八千人。単科大学の雄として緑ヶ丘に立つたはずまいは、いまでも半世紀の伝統を誇っている。七月九日の記念式典、全国各地に活躍する同窓生千人あまりも集めて開かれる祝賀パーティー、この喜びを機会に小樽商大はさらに学内外の充実をはかろうと、ランダーセンター、電子計算機、学生会館建設、この三つの計画を柱に著々と実現化をはかっている。ここに商大半世紀の歩みを特集した。(中坂記者)



現在の校舎

## 全国五番目の高商

### 建設費二十万円で

### 目立つ文壇人の輩出

#### 緑ヶ丘人士今昔

同校を創立したのが、明治三十九年。開校を期したのが、昭和四十三年。創立五十周年をむかえた。同校の創立は、明治四十三年、小樽高等商業学校創立当初からきよまで、全国から集まつて「緑ヶ丘」の門をくぐり、だんだらの地獄坂を降りた同窓生は八千人。単科大学の雄として緑ヶ丘に立つたはずまいは、いまでも半世紀の伝統を誇っている。七月九日の記念式典、全国各地に活躍する同窓生千人あまりも集めて開かれる祝賀パーティー、この喜びを機会に小樽商大はさらに学内外の充実をはかろうと、ランダーセンター、電子計算機、学生会館建設、この三つの計画を柱に著々と実現化をはかっている。ここに商大半世紀の歩みを特集した。(中坂記者)



寮では女性禁制40年

### 大いにもてた高商さん

#### 学生気質と地獄坂

開校第一回の入学生は七十八人。二年になったのは百一十一人、三年のときは百五十四人。そして卒業したのは百五十四人。出身地も年輪もさまざま。全国各地から集まり七十七歳から四十四歳と同一学年で七曜も年齢が違つたものもいた。道内出身者は当時全体の四分の一、したがって半数以上は留宿生を必要とした。学生気質は、この留宿生の中から生まれてきた。留宿生の中からは、学生気質の推移もあつた。

### 歴代学長の横顔

初代学長藤田龍興と二代目房秀忠は、実務教育中心主義をひきつぎ、十四年一月小樽高等商科大学として格上げ。当時東京高等商業学校の教授であった藤田校長は、後任校長に就任した。房校長は、当時、同校の文藝部副部長で、その直前に、当時の文藝部長として、同校の文芸部副部長に就任した。房校長は、物事かむむしろ酒席の座で、その直前に、当時の文藝部長として、同校の文芸部副部長に就任した。房校長は、物事かむむしろ酒席の座で、その直前に、当時の文藝部長として、同校の文芸部副部長に就任した。

三代目百地豊後校長は、野界出身。房校長のもとで、四年生として卒業した人、スギ、柔道、商業、多面的な指導者として知られる。房校長の指導下で、昭和十年から、昭和二十年まで、同校の文芸部副部長に就任した。房校長は、物事かむむしろ酒席の座で、その直前に、当時の文藝部長として、同校の文芸部副部長に就任した。



初代・藤田龍興氏



二代・伴房次郎氏



三代・百地豊後氏



四代・大野純一氏



五代・加茂健一氏

小樽商大の創立に着手された。設計は当時の文部省技師長松岡善三氏が担当。新山平内氏から長崎高商に譲渡された。同校の創立は、明治四十三年、小樽高等商業学校創立当初からきよまで、全国から集まつて「緑ヶ丘」の門をくぐり、だんだらの地獄坂を降りた同窓生は八千人。単科大学の雄として緑ヶ丘に立つたはずまいは、いまでも半世紀の伝統を誇っている。七月九日の記念式典、全国各地に活躍する同窓生千人あまりも集めて開かれる祝賀パーティー、この喜びを機会に小樽商大はさらに学内外の充実をはかろうと、ランダーセンター、電子計算機、学生会館建設、この三つの計画を柱に著々と実現化をはかっている。ここに商大半世紀の歩みを特集した。(中坂記者)

1911

小樽商科大学創立50周年

# 記念祭

1961

小樽商科大学



小樽商科大学創立50周年記念

**NHK**

札幌放送管弦楽団演奏会

1961年7月8日(土)／午後6時30分／小樽緑陵高校体育館

主催 小樽商科大学・NHK小樽放送局